



下半期に入りました。今日から再び、使徒ペテロが紀元一世紀の教会に書き送った手紙の後半をともに読み、神のメッセージを受け取っていきたいと願っています。

ご存知のように、ペテロは大きな挫折を経験しました。しかしそこからふたたび立ち上がって、この手紙を書き残した後には殉教の道を歩んだと伝えられています。現代日本の私たちと同じ少数者であり、ローマの迫害の中にある当時のクリスチャンに対する手紙の中で、彼は「終わり」ということを常に意識しているように思います。

① イエスキリストを模範として生きる

“キリストは肉において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断っているのです。それは、あなたがたが地上での残された時を、もはや人間の欲望にではなく、神のみこころに生きるようになるためです。” 1-2

“キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。” 2:21

② もはや人間の欲望に支配されるのではない

“あなたがたは異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、欲望、泥酔、遊興、宴会騒ぎ、律法に反する偶像礼拝などにふけりましたが、それは過ぎ去った時で十分です。” 3

“兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。…肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。”

ガラヤ 5:13、19-

③ 霊において神によって生きる者として

“このさばきがあるために、死んだ人々にも生前、福音が宣べ伝えられていたのです。彼らが肉においては人間としてさばきを受けても、霊においては神によって生きるためでした。” 6

“キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。” 3:18

○考えてみましょう

- ・私たちはイエスキリストによって永遠のいのちと神の国が約束されました。あなたにとってイエスキリストに出会った今、「それは過ぎ去った時で十分」というものが何かありますか？